

事業概要

1. 事業状況

平成28年度における共済会尚和園の経営に当たっては、引き続き施設、在宅各サービス利用者の利用を積極的に進めるとともに、老人福祉の基本理念をふまえ、当初策定の事業計画にそって、利用者に満足していただける介護サービス、生活支援サービスの提供に努めました。

なお、第2期整備計画の建設工事については、関連工事を含めすべて完了しました。また課題となっていました特養の個室ユニット44床全室をオープンすることもできました。

(1) 施設福祉サービスについて

- 養護については殆んどの利用者が、環境上及び経済的等の理由で、住み馴れた我が家を離れ、不安を抱えながら入所していることを考慮し、何よりも不安感をなくし、一人ひとりの人格を尊重すると共に、家庭的な雰囲気的生活ができるよう明るい施設運営に努めました。
- 特養については、施設サービスを受ける必要性が高いと認められる入所希望者から優先的に入所できるよう、入所検討委員会を設置していますが、28年度においては5回、委員会を開催し、迅速な入所手続きの推進に努めました。
- 介護老人保健施設については、周辺施設の競合や制度見直しの影響による厳しい経営状況のため、施設の目標である利用者確保することは出来ませんでした。

本年度の施設入所者数は前年度より減少しました。

施設入所（短期入所療養介護を含む）については、延べ利用者数が前年度に比べ4%程度低くなってしまいました。受入れ事務の簡素化や医療的管理を必要とする方の積極的受入れなど新規利用者の確保と入所者の継続的なサービス提供に努めてまいりましたが、前年度以上に利用者の確保は厳しい状況になっております。

アンシャンテ拠点区分としては、長期借入金の返済、施設、設備機器の適切な保守管理や修理、経費の節減や業務の合理化により、単年度での収益は確保することが出来ました。

また、アンシャンテはサービス業であるとの認識で利用者第一のサービス提供に努め、地域で愛され、地域包括ケアシステムにおける地域拠点としての一翼を担いつつ、継続的に安定した経営に努めてきました。

(2) 在宅福祉サービスについて

- ① 在宅の要介護老人の増加、尚和園在宅福祉サービスの地域への浸透と共に、年毎に介護等福祉サービス利用者が増加しており、平成28年度においても、できる限り利用者とその家族のニーズに応えられ、気軽に利用できるようショートステイ事業、デイサービス事業、ホームヘルパー派遣事業を積極的に実施すると共に在宅介護支援センターでは、介護等相談事業の推進に努めました。

- 介護老人保健施設の短期入所療養介護事業においては、施設入所者の利用と空床利用という事業性格から昨年より減少しています。年度後半においては、利用ベッド数の範囲内で利用者の受入をしている状況です。

通所リハビリテーションについては、懸案であった土曜日の営業を10月から開始しましたが、延べ利用者数は前年を4%程度下回ってしまいました。

- ② • ショートステイ事業については、養護老人ホーム及び特別養護老人ホーム共、利用者及び家族のニーズに応じて、空ベッド、居室の空き状況等を勘案し、できるだけ受入れ、利用者の便宜と家族の介護負担の軽減に努めました。
- デイサービス事業については、市内他施設との連絡を密にするとともに、連絡帳、センターだより等により利用者との連携を密接にとりながら、個別機能訓練・入浴をはじめ各種サービスの適切な提供に努めました。
- ホームヘルパー派遣事業については、介護サービスの質的向上、困難ケースへの対応等に應えるため、ホームヘルパーについて、内部研修の実施、資格取得研修への積極的な参加等に努めました。また、毎月1回職員、パートヘルパーによるミーティングを実施し、介護サービスの円滑な提供と均一性及び資質の向上に努めました。なお、28年度は、前年度に引き続き利用者が減少しているため、今後より一層のサービスの向上を図るとともに新規利用者の受入れが課題となっています。
- 居宅介護支援事業については、研修等を通じ介護支援専門員の資質の向上に努め、28年度決算は、引き続き収支は順調な結果となりました。なお、今後も引き続き新規利用者の受入れに努めます。
- 在宅介護支援センターは、在宅の要介護老人の介護等各種相談及びサービスの便宜を図り、気軽に電話或いは来園による相談に応じ、また、必要に応じて居宅訪問による介護指導に当たる等、地域に開かれたセンターとしてサービスに努めました。